

外観は、増築に伴って玄関ポーチと増築部分の屋根を片流れ風に替えたことで、モダンな表情も加わった。外壁は再塗装、窓まわりの枠の色を少し濃いめにしてコントラストをつけ、存在感も高まった

奥津先生が歯科医院を開業されたのは2001年10月。医院特有のいかめしさがなく、年齢を問わず患者さんに親しまれる雰囲気のある建物を、という意図からツーバイフォーを選ばれたという。

ご開業後、患者さんが増えるにつれ、まず不便を感じたのはカルテの収納スペース不足。また、近年は歯科医院も競合が多く、他との差別化を図るためにも、患者さんのサービスの一環として予防歯科用のスペースが必要と考えた先生は、2005年にリフォームに踏み切られた。

カルテ収納については、従来のスペースを増床することで解決したが、問題は予防歯科用のスペース。敷地に余裕はあるものの、車で通院する患者さんが多いので、駐車スペースを減らすことなく場所を確保するため建物の前面にスペースを割くことになった。それに伴い、玄関ポーチも少し前出し、屋根も増築部分とポーチを一体にデザイン。外観はよりスタイリッシュな佇まいとなった。

新設された予防歯科用のスペースは待合室に近いので出入りしやすく、診療用の診療ブースとは一線を画す独立した空間なので、患者さんは落ち着いた雰囲気の中で、歯石の除去や歯のクリーニング、歯磨きの指導などを受けることができる。内装の仕上げも既存部分とはイメージを変え、白一色の仕上げに。清潔感にあふれ、トップライトからつねに安定した光が差し込む快適空間となっている。

「工事中、診療を休んだのはたった1日だけ。診療中に工事を中断してもらったり無理も言いましたが、よく対応してくれました」と先生は大満足のご様子であった。



受付の奥にあるカルテ室を奥に延ばし、収納スペースを拡大。待合室はイメージを変えず、キッズコーナーの袖壁のクロスのみを貼り替え

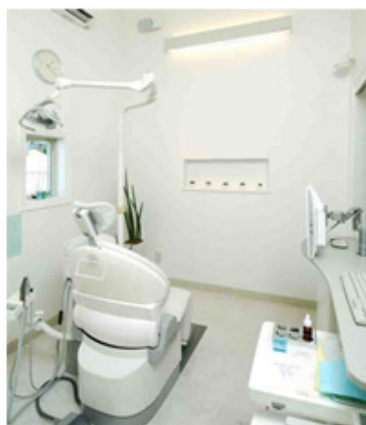


待合室のドアを開けるとすぐに増築した予防歯科用スペースがあり、動線もスムーズ。先生のお好きなブルーのドアは既存のもの



診療スペースは、予防歯科用のスペース（右手）を増築した際に通路の壁のクロスをやや濃いめの色のものに貼り替え、さりげなくイメージチェンジを図った

予防歯科用スペースの内部は清潔感あふれるしつらえ。白さを維持するため、壁には汚れ防止加工を施したクロスを採用。これは新築時に診療スペースに使い、その効果は実証済みだとか



DATA

築年数：9年

リフォーム年月：2005年6月

リフォーム時増築面積：11m²

設計・施工：[株式会社東急ホームズ](http://www.tokyu-homes.co.jp/)

URL：<https://www.tokyu-homes.co.jp/>